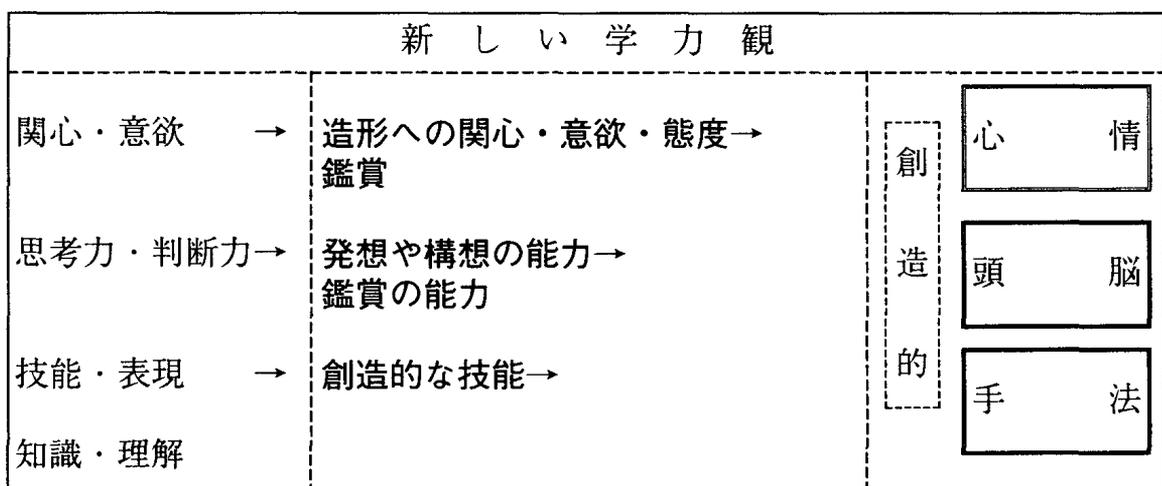


豊かな創造性を育む図画工作科の学習

1 創造的心情の育成のために

子ども達が絵を描くことを落書きとしてとがめながら、図画工作の時間という一つの制約された枠の中で大人の論理、既成概念の価値観にあるような作品を描かせ、つくらせることによって、次第に造形に対する欲求を萎縮させてきたのが、旧教育における指導の実際だとして、反省が求められてきてすでに久しい。作品や作品をつくるための技能の面ばかりが目に向き、与えられた狭い範囲の技法だけでは、思いをうまく表現しきれない子ども達の、しかも、年齢や表現欲求が高くなってくる高学年の子ども達の、創造性の発達を阻んできた。しかし、「子どもが主人公だ。」として、なんでも子どもに任せ、自由に活動している様子だけで、よしとする、形だけの造形遊びも、昨今の図画工作科授業の現場で混乱を起こしている。目新しいだけの、そして、資源の無駄使いに終わってしまう造形遊びは、後片づけが不十分で学校を汚してしまうときには、他の教科の教師からきられることも多く、次第に、一時の流行のように、影を潜めてしまうことになる。

未来を担い、今を生きる子ども達が、自分らしさを発揮し、心豊かに主体的に、そして、創造的に生きる、つまり、自己実現をめざすために、図画工作科でも、教科としてつけるべき学力を整理し、求めるべき子ども像をもう一度、構想するべきであると考えた。



2 研究の方途

図画工作科の主たる目標は、「創造的心情の育成」であると考えます。図画工作科でいう創造的心情とは、人間形成や生き方までも含めた「造形を通しての自己実現を求める心情」である。

(1) 図画工作科で重視すべき創造的心情の育成のための条件

①多様な経験、深い感動の体験の保障
 創造的活動の機会を与えること。
 豊かな気づきや感じとりを育むこと。
 本物、価値あるものに出会わせる。
 おどろきの心を養うこと。

②自由に試行錯誤できる時間と空間の保障
 先入観をもたず、解放された心の柔軟性を養うこと。
 自主性を育て、冒険性をもたせること。

③自信をもたせる支持的風土の保障
 自由でのびのびとした雰囲気
 間違ふこと、失敗することをおそれない雰囲気
 他人と違うことをおそれず、違うことを認めあえる雰囲気

(2) 創造的心情を育むための支援

創造的心情を育むためには、上述の条件を満たした授業づくりはもちろんですが、その前に、特に③自信をもたせる支持的風土としての学級集団の存在を忘れてはならない。

本年度は、図画工作科授業と学級経営との関わりに着目した研究をすすめてきた。

学級での特別活動、朝の会、帰りの会、休憩時間等の、子ども達の造形欲求を保障する場の設定を行いながら、それに関わりの深い指導事例について検証してみた。



3 指導事例3年生「?にへん身」の実践

(1) 題材について

自分のなりたいたいものに変身できたら…。子ども達にとって、あるいは、大人にとっても、「変身してみたい。」という思いは、人間の心の底に欲求、願望として存在するものであるのかもしれない。特にこの時期の子ども達は、変身することを通して、自分のあこがれの世界に入り込んだり、あこがれの存在になりきったりすることができると思う。

自分の想像の世界を広げ、その世界を実現することができるこの題材は、冒険心をかき立て、主体的に関わることができる題材であろう。

本学級のこども達は、学級活動の時間に、様々な表現活動を行ってきた。

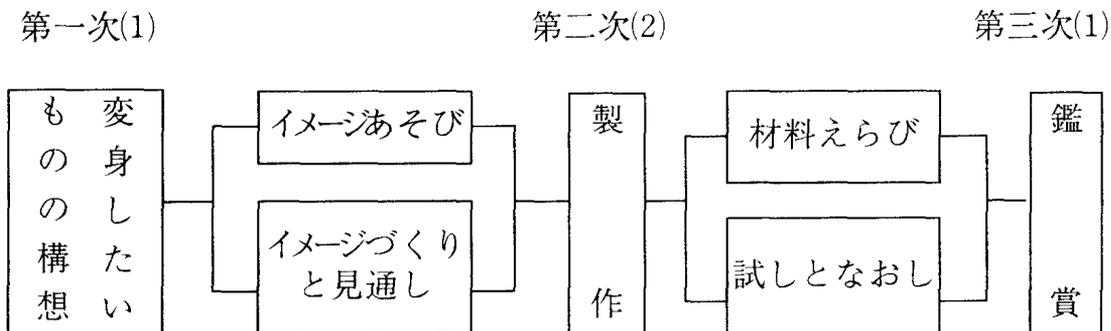
毎日のように、帰りの会で寸劇や瞬間劇のようなものを楽しんでいる。それらに登場するものは、テレビやマンガのキャラクターであったり、昆虫や動物、自分の家族であったりする。休憩時間に画用紙や色紙を要求してきたり、校庭から木切れなどを拾ってきて小道具にしている。しかし、休憩時間という短い時間だけで、面をつくったり、小道具をつくったりすることや、寸劇の練習をするだけでは、十分やりたいことを表現しきれない様子である。

そこで、「?にへん身！」の授業を設定し、製作や活動のための十分な時間と場の保障をすることにした。

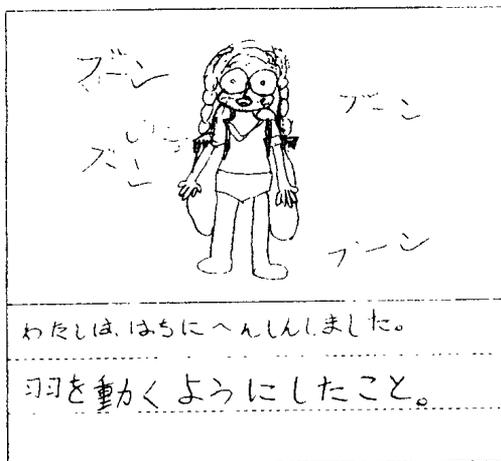
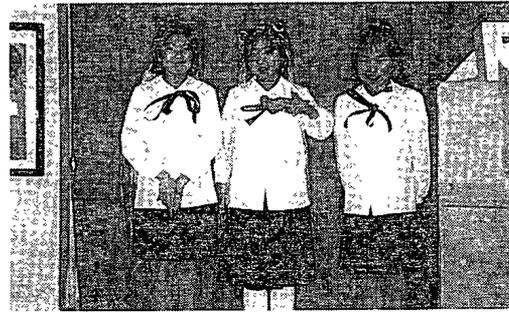
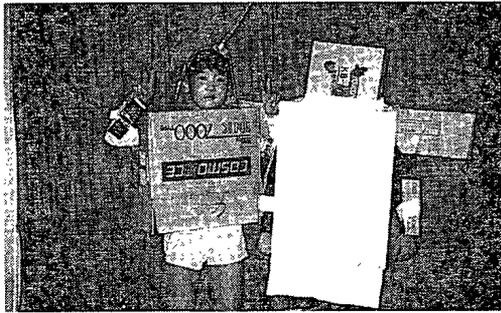
(2)指導目標

- ①自分の変身するものを思いのままつくることの楽しさを味わわせる。
- ②自分の変身したいもののイメージを構想し、材料を工夫して様々に試みながら作るようにさせる。
- ③自分や友達の発想や工夫などのよさに気づき互いに認め合う態度を養う。

(3) 指導内容と計画…………… 5 時間



(5) 作品や鑑賞カードの記述から



(6) 指導後の考察

この題材による、「創造的心情」の育成について考察してみたい。まず、指導目標と創造的心情との関係を見てゆくと、

- | |
|--|
| ①自分の変身するものを <u>思いのまま</u> つくることの <u>楽しさ</u> を味わわせる。 |
| ②自分の変身したいもののイメージを構想し、材料を工夫して <u>様々に</u>
<u>試みながら</u> つくるようにさせる。 |

①「様々に試みながらつくる」ことを保障し、②「思いのままつくる」ことを保障することによって、先入観をもたず、開放された心の柔軟性を養うこと、自由でのびのびとした、間違ふこと、失敗することをおそれない心情を培うこと、自主性を育て、冒険性をもたせることにつながる。

- | |
|---|
| ③自分や友達の発想や工夫などの <u>よさに気づき互いに認め合う態度</u> を養う。 |
|---|

③「よさに気づき互いに認め合う態度を養う」ことによって、他人と違うことをおそれず、違うことを認めあい、一人ひとりの個性を尊重する心情を養うことにつながる。

次に子ども達のカードの記述から、イメージの具現化（めあての追求）に向け、授業の場から、遊び時間や家庭にむけての活動の広がりが見られた。

本来、子ども達の造形への欲求は、学校や教師によって設定され、一定の枠組みの中につくられた授業の中に閉じこめるべきものではない。また授業も、旧来の、制限された枠の中だけで展開しては子ども達の自己実現を保障することはできないであろう。

このように考えていくと、図画工作科において、創造性を育むためには、よりよい題材を開発し、授業構成を工夫しながら、子ども達の生活の場である学級の生活づくりあるいは、学校全体そして家庭においても、造形を通しての自己実現を保障する営みが必要であると考えられる。

参考引用文献

- 1) 文部省「小学校 図画工作科指導資料」開隆堂出版
- 2) 前田 博 「創造性を育てる教育」明治図書
- 3) 梶田叡一 「内面性の人間教育を」金子書房

(加藤 潔己)